

# MC780dnと他の複合機・プリンタを 使い分け、業務効率が向上。 高性能で低価格なA4複合機なら 2台目の複合機としても最適

A4複合機／製造・小売業



株式会社長門屋商店  
業務統括 センター長  
中島 淳氏



Corporate Data 株式会社長門屋商店様

<http://www.nagatoya.com/>

1947年創業の紙製品のメーカー商社。創業時から祝儀袋にこだわり、多数の商品バリエーションを創出。ワープロ・パソコンの普及以降はOA用紙にも力を入れ、事業を拡大している。東京・麻布十番に本社を構え、東京・東陽に営業・物流センターを置いて業務を展開。「紙」を生み出す森林の保護活動や環境マネジメント活動にも熱心に取り組んでいる。

東京・麻布十番に本社を構える祝儀袋・プリンタ用紙のメーカー商社・長門屋商店。同社では、東京・東陽にある営業・物流センターにおいて、OKIのA4カラーLED複合機「COREFIDO MC780dn」を導入。従来からあるA3カラーレーザー複合機や、モノクロおよびカラーレーザープリンタと用途に応じて使い分け、業務効率の向上を実現している。「MC780dn」はどのような用途に使っており、どんな利点があるのか？ この営業・物流センターを取り仕切る、業務統括 センター長の中島淳氏に訊いた。

## 評価のポイント

- パンフレットやチラシ、商品ラベルなどを美しく内製できるプリント品質
- 大量印刷もあつという間にこなすプリントスピードの速さ
- 高機能ながら価格が安く、2台目の複合機として、また業務継続のリスクヘッジとしても最適

## 計7台もの複合機・プリンタを 用途に応じて活用

江東区東陽の閑静な住宅街の一角にある創業67年を誇る紙製品の老舗・長門屋商店の東陽営業・物流センター。3階建ての1階2階は主力製品であるOA用紙および祝儀袋の在庫スペース、3階がオフィススペースとなっていて、現在、12名が勤務している。「このセンターは製造卸売業の拠点として営業所も兼ねています」と業務統括センター長の中島淳氏は語る。

紙を扱う会社ということもあり、同社ではプリンタや複合機の利用頻度も高い。最も多いのが伝票や送り状などのプリント。文具店や問屋からの注文もFAXで来ることが大半で、倉庫でのピッキングのためにFAXで届いた受注書をコピーしたりもする。さらにPOPやチラシ、パンフレット、商品につけるラベルや

バーコードなどもプリンタを用いてほぼ全て内製。商品サンプルをつくる際にもプリンタが必須となる。「多い時には1日300～500枚はプリントします。ただ、ほとんど余り紙を使うようにはしていませんね。そのためいろいろな種類の紙を使うし、時にはサンプル作成のために和紙や厚紙を通したりもするので、プリンタはかなり酷使します」と中島氏は言う。

こうした幅広いプリント需要に対応するため、現在、同センターでは、メイン機のA3カラーレーザー複合機のほか、A3モノクロレーザープリンタ3台、A3カラーレーザープリンタ2台、さらにA4カラーLED複合機の「MC780dn」と、合計7台ものプリンタが稼働中だ。3台のA3モノクロプリンタは、それぞれ伝票用、送り状用、その他の業務用。2台のA3カラープリンタについては、1台はサンプルなどを作るDTP用、もう1台は1階倉庫の作業スペースでの商品ラベル印刷用と、用途に応じて使い分けている。



3階のオフィススペースに設置されている「MC780dn」。パンフレット、チラシなど、外部の目に触れるものはほぼ全て「MC780dn」でプリントしている。

## 高画質プリントでツールを内製化。 高速・高精細なスキャンにも満足

それでは2013年10月に導入した「MC780dn」はどんな用途で使っているのか？ 基本的にはプリント、コピーで使っているが、とりわけパンフレットやチラシなど、外部の目に触れるものはほぼ全て「MC780dn」でプリントしているという。

「理由は**プリントが群を抜いて美しい**からです。**解像度が高く、色再現性にも優れている**。商品ラベルも、1階倉庫のカラーレーザープリンタだけでなく、『MC780dn』でプリントすることが増えました」と中島氏は語る。

カラー／モノクロとも毎分40ページ(※1)というプリントスピードにも満足している。特に威力を発揮するのは、やはりパンフレットやチラシを大量印刷する際だ。

「1回につき50～100枚は当たり前前にプリントしますが、**カラーでもあつという間にプリントが完了**する。導入当初は『えっ、本当にもう終わったの？』と驚きましたね」

スキャン性能も優秀だ。スキャンは、チラシなどを作る際に商品画像を取り込んだり、FAXで来た注文書を電子化してEvernoteに保存し、スマートフォンなどで参照できるようにしたりといった用途で使っているが、**メイン機であるA3複合機より格段に高速・高精細**なので、これらもほぼ全て「MC780dn」でできるようになってしまったそうだ。

## 抜群のメンテナンス性。 買い切り・5年間無償もメリット大

さらに中島氏が気に入っているのが、メンテナンス性の高さだ。同センターではサンプル作成のために、プリンタで和紙などにプリントすることがあるが、それによって給紙ローラーに粉が付着してしまうこともある。そんな際、「MC780dn」の場合、ドラムなどを全て取り外して内部に容易にアクセスし、**自力でメンテナンスすることが可能**だ。「付着した粉の掃除も、自分たちでガムテープを使ってやっています。万一、紙詰まりが発生した時も、どこで詰まっているのか必ず見えて、すぐに対処できるのがいいですね。プリンタについて知識のある人にはよりメリットが大きいですね」と中島氏は言う。

**液晶パネルがカラーで大きく、ボタンやアイコンが見やすい**点も、年配の社員が多いためありがたいとのこと。また、和紙などを印刷する際に使う手差しトレイが本体手前からアクセスするタイプであることも、「**余計な出っ張りがないので設置場所に困らない**。これは目立ちませんが非常に重要です」と語る。

複合機については、リースでカウンターチャージ方式をとるケースがほとんどだが、OKIの場合は買い切りが

基本。これについても中島氏は「OKIの場合、買い切り前提で**カウンターチャージも発生しない**ため、明朗かつシンプルで当社の方針に合致している。また**5年間無償保証**がついていて、保守パックの契約を別途しなくていいのもコスト削減につながります」と語る。

## 複合機2台なら業務継続リスクも軽減。 A4複合機+A3プリンタという選択肢もある

もともとOKIが提唱する“A4カラー複合機”というコンセプトが面白いと感じていたという中島氏。実際に「MC780dn」を導入してみて、改めて複合機に対する考え方が変わったという。

「A3をプリントすることなんて、100枚に1枚もないですね。だったらメイン機としてA4複合機を使い、A3印刷が必要な時のためにA3カラープリンタを別に持っておくというほうが合理的かなとも思います。A3複合機よりA4複合機のほうが圧倒的に安いし、また、使いもしないA3の紙をずっと複合機の中に入れておくと、湿気で紙が波打ち、紙詰まりの原因にもなりますから」

また、「MC780dn」を導入後、メインのA3複合機のFAXが不調になったこともあったが、その際も「MC780dn」の**FAX機能**を利用し、何の問題もなく業務を継続できたそう。「**業務を止めない**」という意味でも、価格の比較的安いA4複合機をバックアップとして用意するのは有効でしょう」と中島氏。これからも「MC780dn」は、長門屋商店のビジネスを支える心強い味方になりそうだ。



手差しトレイは本体手前からアクセスできる。余計な出っ張りがなくスペースにも困らない。



大画面のカラー液晶パネルはボタンやアイコンが見やすく、操作しやすい点も評価が高い。

### 導入製品

A4カラーLED複合機のハイスペックモデル

**COREFIDO**

**MC780dn**

**COREFIDO 2**

本体価格 368,000円(税別)

- カラー／モノクロとも毎分40ページの高速プリント／コピー機能(※1)
- カラー約11.5円、モノクロ約2.7円の低ランニングコスト(※2)
- 9インチの大型カラー液晶タッチパネルを装備
- 最大100枚までの連続両面スキャン機能
- A4の他、216×1321mmの長尺印刷も可能

※1 普通紙、A4片面／コピーモード(複写部印刷)時。

※2 連続複写速度(A4片面等倍コピー時)



※ 本事例原稿は2014年2月の取材に基づいています。